

# 我が国のユネスコ活動について （平成26年8月～平成27年3月）



平成27年3月



日本ユネスコ国内委員会

Japanese National Commission for UNESCO

本報告は、平成26年8月から平成27年3月までの活動を中心に記述しています。  
また、密接に関連するものについては、日本ユネスコ国内委員会以外の活動も記述  
しています。

表紙  
ESDユネスコ世界会議  
(平成26年11月10日)



# 目 次

## <TOPICS>

和紙、無形文化遺産登録.....	1
クリエイティブ・シティーズ・ネットワーク新規2都市登録.....	1

## <日本ユネスコ国内委員会活動報告>

教育分野における取組 .....	2
ユネスコスクールへの取組 .....	2
科学分野における取組 .....	3
政府間海洋学委員会 (IOC) .....	3
国際水文学計画 (IHP) .....	3
人間と生活圏 (MAB) 計画 .....	4
その他 .....	5
文化分野における取組 .....	5
世界遺産条約 .....	5
ユネスコ記憶遺産 .....	6
信託基金を通じたユネスコへの支援 .....	7
各国との交流 .....	8

## <民間ユネスコ活動>

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 .....	10
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター .....	25

## <日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料>

国際会議等一覧 .....	33
ユネスコ関係者来日一覧 .....	35
国内委員会会議 .....	35
国内委員会委員人事 .....	36
国内委員会事務局人事異動 .....	37
日本／ユネスコパートナーシップ事業 .....	38
ユネスコ活動費補助金 .....	40
政府開発援助ユネスコ活動費補助金 .....	41
日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧 .....	42
ユネスコスクール新規加盟校一覧 .....	45



## 「和紙」、無形文化遺産に登録

### ユネスコ無形文化遺産保護条約第9回政府間委員会



石州半紙の紙漉き

平成26年11月24日～28日、フランスのパリ(ユネスコ本部)において第9回政府間委員会が開催され、我が国から提案していた「和紙：日本の手漉和紙技術」を含む34件のユネスコ無形文化遺産登録(代表一覧表記載)が決定されました。これにより、我が国の無形文化遺産は、22件となりました。(平成27年3月現在、世界全体での登録件数は314件)。「和紙」は、2009年に無形文化遺産に登録された「石州半紙」に、国指定重要無形文化財である、「本美濃紙」、「細川紙」を追加し、拡張登録されたものです。

また、同委員会では以下の事項も決定されました。

- ・2015年サイクルよりユネスコ無形文化遺産の事前審査を行う「評価機関」の選挙が行われ、我が国が推薦した岩崎まさみ北海学園大学教授が選出された。
- ・2016・2017サイクルの審査件数は、引き続き、各年50件とされるとともに、各締約国は少なくとも2年に1件は審査が保障されることとなった。

## クリエイティブ・シティーズ・ネットワーク、新規2都市が加盟

平成26年12月、ユネスコの文化局が実施するクリエイティブ・シティーズ・ネットワークについて、我が国から鶴岡市(山形県)及び浜松市(静岡県)の加盟が新たに認められました。これにより、我が国からの加盟は6都市となりました。

クリエイティブ・シティーズ・ネットワークは、文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の7分野において、都市間で相互に連携し、国内外のネットワークを通じて文化産業の強化による都市の活性化及び文化多様性への増進を図る取組です。我が国の都市としては、食文化分野の鶴岡市、音楽分野の浜松市のほかに、



浜松国際ピアノコンクール

提供：浜松市・公益財団法人浜松市文化振興財団



在来作物の栽培

提供：山形県鶴岡市

デザイン分野の名古屋市及び神戸市(平成20年10月)、

クラフト&フォークアート分野の金沢市(平成21年6月)、メディアアート分野の札幌市(平成25年11月)が加盟しています。

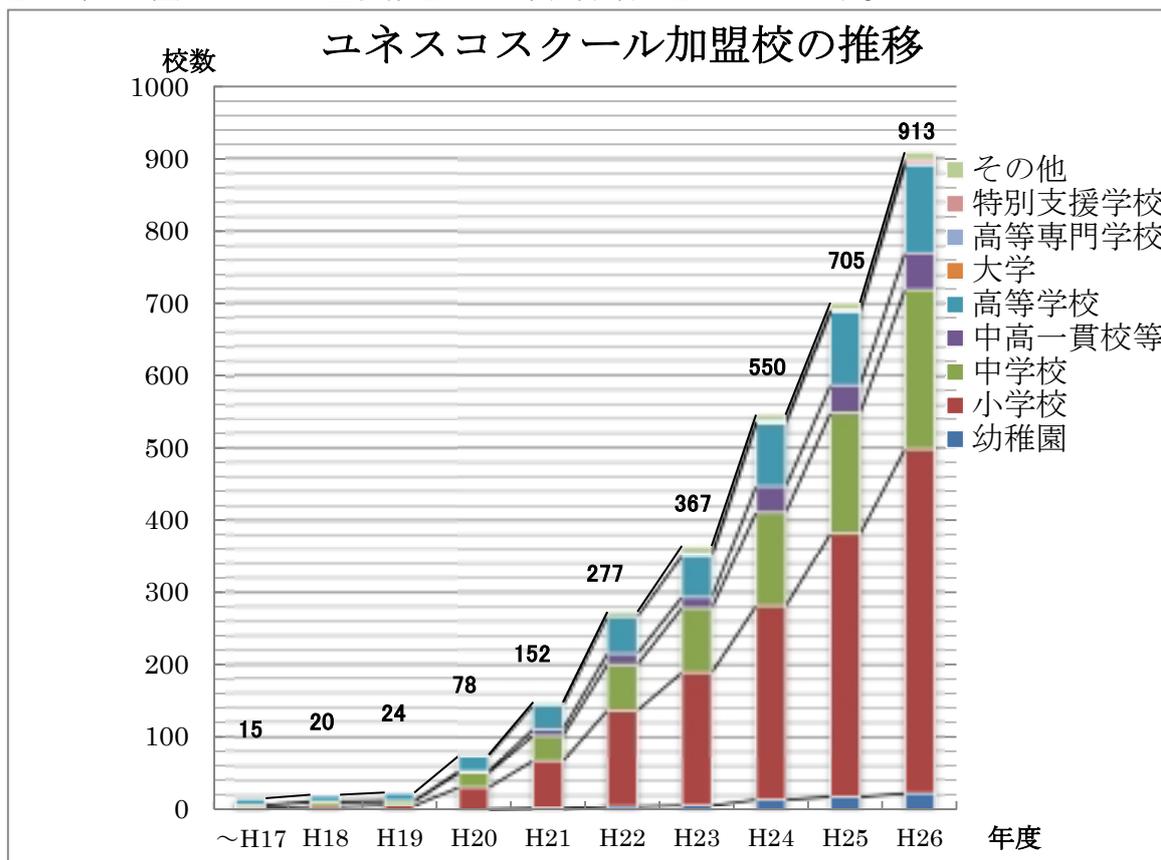
クリエイティブ・シティーズ・ネットワークは、全世界で69都市が加盟しており、それぞれの分野における都市間のネットワークを活用した積極的な文化事業の国際展開が期待されています。

## 教育分野における取組

### ユネスコスクールへの取組

#### 加盟校数の増加

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として位置づけています。平成 27 年 1 月現在、世界 182 か国の国・地域で約 1 万校のユネスコスクールがあります。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年(DESDE)」が始まった平成 17 年から飛躍的に増加しており、平成 27 年 1 月時点で 894 校となり、1 か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。



	幼稚園	小学校	中学校	中高一貫校等	高等学校	大学	高等専門学校	特別支援学校	その他
~H17		3	4		8				
H18		5	6	1	8				
H19		6	6	1	10	1			
H20	1	30	20	2	21	3			1
H21	2	65	35	9	33	4			4
H22	5	132	63	15	51	4			7
H23	6	183	89	15	57	4	1	2	10
H24	14	267	130	36	86	5	1	2	9
H25	18	364	166	38	102	5	1	2	9
H26	23	475	221	51	121	5	1	6	10
								総計	913

## 科学分野における取組

### 政府間海洋学委員会 (IOC)

#### IOC/WESTPAC 地域海洋学トレーニングセンター(RTRC)設置に関するワークショップ

平成 26 年 11 月 18 日～19 日に、東京大学大気海洋研究所で IOC/WESTPAC における地域海洋学ト



提供：東京大学大気海洋研究所

レーニングセンター設置に関するワークショップが開催され、ユネスコ IOC 及び WESTPAC をはじめ 10 か国から代表者が参加し、西太平洋沿岸諸国の海洋学分野における科学知識の増進及び人材養成に貢献するため、日本における地域海洋学トレーニングセンターの設置に向けた検討が進められました。

地域海洋学トレーニングセンターにおいては、今後の地域海洋学を担い、地球規模の諸問題に対処し持続可能な社会づくりに貢献していく人材の育成が期待されます。

### 国際水文学計画 (IHP)

#### 第 24 回 IHP トレーニングコース

第 24 回ユネスコ国際水文学 (IHP) トレーニング・コース「Forest Hydrology - Conservation of Forest, Soil and Water Resource (森林水文学 - 森・土・水の保全のために)」が 11 月 24 日～12 月 7 日に、名古屋大学にて開催されました。



東京大学生態水文研究所愛知県演習林見学  
提供：名古屋大学

本プログラムは、ユネスコ・ジャカルタ事務所に日本が拠出している信託基金及び政府開発援助ユネスコ活動費補助金により、ジャカルタ事務所と名古屋大学地球水循環研究センター・京都大学防災研究所水資源環境研究センター共催の下、アジア・太平洋地域の人材育成のため、1991 (平成 3) 年より毎年実施されています。毎回 5～10 名の同地域の IHP 事業を担う水分野の専門家の人材育成を行っており、これまでに 170 名以上の研修生を受け入れています。講義は全てテレビ会議方式を利用し、ジャカルタなどの数か所の会場で同時放映されました。

## 第 22 回 IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会 (RSC)

平成 26 年 11 月 13 日～14 日に、ジョグジャカルタ(インドネシア)で第 22 回 IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会 (RSC) が開催されました。本委員会には寶 馨ユネスコ国内委員会委員・IHP 分科会主査が議長を、立川 康人ユネスコ国内委員会調査委員が事務局長を務めています。

本委員会には 11 か国の IHP 代表、ユネスコ・ジャカルタ事務所、北京事務所及びイスラマバード事務所から出席があり、各国の IHP 活動の取組状況が報告されるとともに、ユネスコセンターの活動報告、河川カタログ後継プロジェクトの検討、第7回世界水フォーラムの開催準備等に関するグループ討議と報告などが活発に行われました。



提供：IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会

## 人間と生物圏 (MAB) 計画



提供：長野県山之内町

## 第 1 回ユネスコエコパーク全国サミット in 志賀高原

平成 26 年 9 月 19 日～20 日、昨年 6 月に拡張登録が決定した志賀高原ユネスコエコパークにおいて「第 1 回ユネスコエコパーク全国サミット in 志賀高原」が開催されました。初日には、日本ユネスコ国内委員会人間と生物圏 (MAB) 計画分科会の鈴木 邦雄主査(当時)から、竹節 義孝山ノ内町長に、イリナ・ボコバユネスコ事務局長の署名が入ったユネスコエコパーク認定証が手渡されました。

本サミットでは、国内のユネスコエコパーク(只見、志賀高原、白山、南アルプス、大台ヶ原・大峯山、綾)から関係者が一堂に会し、各地域の特色ある取組の共有や、活発な意見交換などが行われました。ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会との共生)を目的とした取組です。本サミットを契機として、ユネスコエコパーク間の連携が促進され、持続可能な社会の構築に向けたモデルケースとなる取組が一層展開されることが期待されます。

本サミットでは、国内のユネスコエコパーク(只見、志賀高原、白山、南アルプス、大台ヶ原・大峯山、綾)から関係者が

## 南アルプスユネスコエコパーク 登録証授与記念式典

平成 27 年 2 月 14 日、南アルプスユネスコエコパークにおいて「南アルプスユネスコエコパーク 登録証授与記念式典」が開催されました。本式典においては、南アルプスユネスコエコパークを構成する 3 県 10 市町村の代表者に対して登録証の授与が行われました。また、南アルプスユネスコエコパークの魅力について、増澤武弘ユネスコエコパーク登録検討委員会委員長より講演がありました。さらに、構成自治体の一つである大鹿村に伝承されている大鹿歌舞伎の公演が行われるなど、南アルプスユネスコエコパークの魅力を十分に堪能できるイベントとなりました。



提供：南アルプス世界自然遺産登録推進協議会

## その他

### 「阿蘇」の世界ジオパーク登録決定

平成26年9月、カナダで開催された国際会議において、「阿蘇」の世界ジオパークへの登録が決定されました。これにより、我が国における世界ジオパークは、洞爺湖有珠山、糸魚川、山陰海岸、島原半島、室戸、隠岐、阿蘇の7地域となりました。

世界ジオパークは、環境教育と研究の場を提供するとともに、地域の持続可能な経済開発に資することを目的の一つとしています。ユネスコが実施する事業ではありませんが、協力関係にあり、ユネスコの理念に沿う事業として、今後の更なる活用が注目されます。

## 文化分野における取組

### 世界遺産条約

#### 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「ル・コルビュジエの建築作品」の推薦

平成26年9月17日、外務省主催で世界遺産条約関係省庁連絡会議が開催され、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「国立西洋美術館」（フランス政府が日本を含む7か国共同で推薦する「ル・コルビュジエの建築作品」の構成資産の一つ）を世界遺産に登録するための推薦書（暫定版）をユネスコ世界遺産センターに提出することが決定されました。さらに、平成27年1月14日には、同会議において上記2件の推薦書（正式版）をユネスコ世界遺産センターに提出することにつき閣議了解を求める旨決定し、同月16日の閣議了解を経て、推薦書（正式版）がユネスコ世界遺産センターに提出されました。

今後の予定としては、本年9月頃に諮問機関（イコモス（国際記念物遺跡会議））による現地調査が行われた後、明年4月から5月頃に発表されるイコモスの勧告を踏まえて、同年6月から7月頃に開催される第40回世界遺産委員会にて世界遺産登録の可否が審議・決定されます。



大浦天主堂（長崎県）

提供：長崎県

#### 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の登録審議

昨年1月末にユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出した「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」については、同年9月24日～10月7日、イコモスの調査員が、現地調査を行いました。今後、本年4月末に発表される予定のイコモスの勧告を踏まえ、本年6月28日～7月8日の第39回世界遺産委員会（ドイツ、ボン）において、同物件の世界遺産登録の可否が審議される予定です。



韮山反射炉（静岡県）

## 奈良文書20周年会議

平成26年10月、「真実性に関する奈良ドキュメント」(以下「奈良文書」という)が採択されてから20周年を迎えることを記念して、文化庁、奈良県及び奈良市が主催となり、奈良文書20周年記念会合を開催しました。「奈良文書」は、平成6年に奈良で採択され、我が国特有の木造の文化遺産の保存修理のあり方について世界的な理解を得るきっかけとなった国際宣言です。今回、20周年を祝するとともに、多様な関係者の参画や持続可能な開発における文化遺産の役割など新たな観点を加えるため、「20周年記念会合」を開催し、成果文書をとりまとめました。

## ユネスコ記憶遺産

### 国内申請プロセスの決定及び公募開始

ユネスコ記憶遺産の申請は、2年に1度、1国から2件以内とされていますが、近年の我が国におけるユネスコ記憶遺産への関心の高まり等から、今後も2件を超える申請が想定され、国内申請プロセスの見直しが必要とされていました。これに伴い、日本ユネスコ国内委員会文化活動小委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会において検討を行った結果、これまでの個人・団体等によるユネスコへの直接申請を改め、国内公募によりユネスコの審査に付する物件を選定することが決定されました。なお、平成28年申請物件の公募は、平成27年3月2日から開始されています。

### 我が国申請物件の登録審査について

平成26年6月に開催された日本ユネスコ国内委員会第128回文化活動小委員会において、平成26年にユネスコ記憶遺産の審査に付する物件として選定された「舞鶴への生還 1945～1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」及び「東寺百合文書」の2件については、本年開催される、ユネスコ記憶遺産国際諮問委員会(IAC)において審議が行われ、最終的にはユネスコ事務局長が登録の可否を決定することとなります。



『東寺百合文書』(シ函と文書)  
しほこもんじよ  
(©京都府立総合資料館)



『白樺日誌』  
(©舞鶴引揚記念館)

## 信託基金を通じたユネスコへの支援

### 持続可能な開発のための教育(ESD)交流・協力信託基金

「国連の持続可能な開発のための教育の10年(DESDE):2005～2014」の提案国としてESDの推進に貢献するため、ユネスコに対して信託基金を拠出し、ユネスコ加盟国に対して教育関係者を対象にしたESDに関する事業を実施しています。今期の主な成果として、「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催が上げられます。

### アジア・太平洋地域教育協力信託基金

アジア・太平洋地域における教育の充実と質の向上に貢献するため、ユネスコに対して信託基金を拠出し、ユネスコバンコクが中心となって、EFA(万人のための教育)目標達成やESD(持続可能な開発のための教育)に関連した支援事業をはじめ様々な事業を実施しています。

例えば、幼児教育教員の地位向上や専門性の深化のための政策指針の作成、インクルーシブ教育やEFA・ESDの概念や価値観を教員養成やカリキュラム開発に統合していくアドボカシー活動、ESDの一環としての防災教育の普及、地域の無形文化遺産を組み込んだ学習環境や教材作成支援等の事業を実施しています。

また、2014年8月6-8日には、タイ・バンコクにて、「アジア太平洋地域教育会合」が開催され、域内から教育大臣および政府高官、国際機関関係者、大学教授、市民社会代表者等が参加し、アジア太平洋におけるEFA達成に向けたこれまでの成果やポストEFAの展望について議論されました。この会合は、2015年5月に韓国で開催される世界教育会議につながる各地域会合の一つとして他地域に先駆けて開催されたもので、世界教育会議で採択予定の国際行動枠組みへの提言となるバンコク宣言が採択されました。



「アジア太平洋地域教育会合」の様子  
(UNESCO ホームページより)

### ユネスコ地球規模の課題解決のための科学振興事業信託基金

アジア・太平洋地域における科学事業を支援するために、ユネスコジャカルタ事務所に対して信託基金を拠出しており、科学技術分野における研究活動や人材育成等に貢献しています。

例えば、ジャカルタ事務所と京都大学防災研究所・名古屋大学地球水循環研究センター共催のもと、国際水文学計画(IHP)事業を担う水分野の専門家の人材育成を行っています。

また、生物多様性の保全、持続可能な発展、学術研究支援を目的として、ユネスコが指定する生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク)を活用して、自然と人間社会の共生に必要な教育事業や科学調査事業、政策形成支援などを実施しています。



## 各国との交流

### 韓国教職員招へいプログラム

平成26年8月29日から9月1日にかけて、日本の教職員の韓国政府招へい事業が行われ、日本の教職員50名が韓国を訪問しました。2グループに分かれて江原道及び忠清北道を訪問し、現地ではユネスコスクールなどの教育施設を訪問し先生・生徒との交流、ホームビジット、地域遺産訪問が行われました。

また、平成27年1月18日から1月26日にかけて韓国教職員招へいプログラムが行われ、韓国ユネスコ国内委員会事務総長のミン・ドンソク氏を団長とする約100名の教職員が訪日しました。参加者は東京近郊の学校訪問のほか、3グループに分かれて千葉県、和歌山県、千葉県八千代市の学校や教育文化施設等を訪問し、教職員と意見交換しました。日本の教育現場を見るとともに、ホームビジットやそれぞれの土地独自の文化に触れ、日本への理解を深めました。



### 日本ユネスコ国内委員会フェロースhip事業

日本ユネスコ国内委員会では、毎年度、アジア・太平洋諸国のユネスコ国内委員会スタッフとの交流事業を行っています。今回は、中国、韓国、タイ、トルコ、ベトナムから職員を招へいし、本年1月28日から2月5日の日程で実施しました。特に今回は、地域を越えた交流の重要性を踏まえ、約20年ぶりにトルコから参加いただきました。

一行は、1月29日に山協事務総長への表敬訪問を行い、山協事務総長からは、各国のユネスコ活動について様々な分野での理解を互いに深め、更なる協力につなげていきたい旨述べました。

その後、各国国内委員会の活動紹介や「2014年以降のESDの更なる推進」をテーマとしたワークショップが行われ、活発な意見交換が行われました。ほかにも、関連団体の訪問や奈良及び宇治の世界遺産視察、ユネスコスクールの訪問、ESDコンソーシアムにおける勉強会に参加し、ユネスコ活動への理解を深めました。



## タイユネスコ国内委員会主催職員交流事業

タイユネスコ国内委員会主催職員交流事業は、平成26年9月15日から20日にバンコク及びタイ南部のトラン県で行われ、中国、韓国及び日本からユネスコ国内委員会職員が参加しました。バンコクでは、各国内委員会の概要や各国のユネスコ活動について発表し、意見交換を行ったほか、ユネスコスクールに関するディスカッションが行われました。また、ユネスコバンコク事務所を訪問したほか、チュラロンコン大学で開催された National Launch Meeting of the 2013/4 Education for All (EFA) Global Monitoring Report に参加し、EFAに関する活発な議論の中、アジア太平洋地域における各国のEFAに関する情報交換を行うことができました。このほか、ラーマ5世の宮殿や、数々の彫刻や絵画がユネスコ記憶遺産に登録されているワット・ポー寺院を訪問しました。

トラン県においては、ユネスコスクールである Princess Chulabhorn Science High School Trang を訪問し、そこで行われている ESD Rice Project について生徒から概要の説明を受け、日頃からESDに関する授業で交流のあるコミュニティセンターや農園等を実際に生徒たちと訪れました。共に課外授業に参加する中で、タイの学校現場ではどのようにESDと向き合い、学んでいるのかを知り、教職員や生徒と様々な意見交換を行いました。



## 中国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業

平成26年12月15日から19日の日程で、中国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業が実施されました。本事業には、日本のほか、韓国及びタイのユネスコ国内委員会職員が参加しました。

中国国内委員会訪問時の活動紹介のプレゼンテーションにおいて、日本からは2014年11月に開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の成果に重点を置いて紹介し、各国からのハイレベルの参加に対して感謝の意を述べました。その後、ユネスコスクールの活動を含む様々な活動について、活発な情報交換、意見交換が行われました。

その他、北京師範大学内にある、中国で唯一の教育に関するユネスコカテゴリー2センターである「UNESCO International Research and Training Center (INRULED)」やユネスコ・クラブ・スクールであり、ESDスクールでもある潞河(ルーエ)中学・高校(北京市)、陝西省西安高校(西安市)等も視察し、情報交換を行いました。



# 民間ユネスコ活動

## 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

### I. 学校関連事業

#### ◆ 守ろう地球のたからもの

学習教材「豊かな自然編」「豊かな世界遺産編」、絵本「サクラソウのひみつ」を希望する学校に寄贈し、子どもたちへの ESD の普及に努めています。平成 26 年 8 月 19 日には「豊かな世界遺産編」を用いた研修会を実施し、全国のユネスコスクールから教員 56 名が参加しました。〔協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)〕



第 39 回「みどりの絵コンクール」には全国から 24,718 点の応募があり、409 の入選作品の中から、最優秀賞 9 名を決定。平成 26 年 12 月 6 日、東京で第 39 回「みどりの絵コンクール」表彰式を開催しました。〔協力：三菱 UFJ 環境財団〕



### II. ユネスコスクール関連事業

◆ ユネスコスクールプレートを新規登録校に寄贈しました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕  
平成 27 年 2 月現在、国内のユネスコスクール総数は 807 になりました。



◆ユネスコスクールへの活動助成

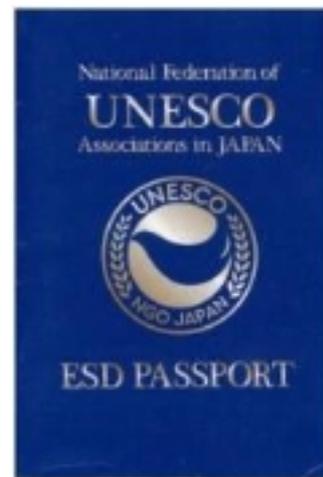
第6期「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」に102校から申請があり、平成27年3月2日に102校への助成が決定しました。〔協力:三菱東京UFJ銀行〕

◆第5回「ESD 国際交流プログラム」

高校生ESD作文コンテスト実施した201名の中から選ばれたユネスコスクールの高校生6名と当連盟理事・職員2名が、平成27年3月21日～28日までドイツ及びフランスのユネスコスクール、UNESCO パリ本部等を訪問し、交流活動を行うことが決定しました。〔協力:三菱東京UFJ銀行〕

◆「ユネスコ協会 ESD パスポート」

学校教育が取り組んでいる「持続可能な開発のための教育(ESD)」の相乗効果を高めるために、ユネスコ協会が児童・生徒のボランティア活動を促進する目的で「ユネスコ協会 ESD パスポート」を使用した教育実践を実施しています。このESD パスポートを通じて子供たちが地域の課題を主体的にとらえ、解決のために自ら考え、行動する機会を提供し、学校と協働して持続可能な社会づくりと人材育成を目指します。平成26年度は、全国で25のユネスコ協会が地域の80の学校やユネスコスクールと活動を行い、約16,000名が参加しました。平成27年1月、2月には岡山、名古屋、大阪などで参加した生徒による体験発表会を開催しました。



#### ◆サイエンススクール

「いのちと健康」をテーマに生命や科学への興味とその大切さを学ぶ機会として、2011 年より小学校対象の出前授業「サイエンススクール」を実施しています。平成 26 年度は 6 月から 12 月までの間にユネスコスクールを含む小学校 13 校で授業を行い、1158 名の子どもたちが出前授業を受けました。授業では、身体のマカニズムや薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりなどを体験し、子どもたちが生命や科学に興味を持つきっかけとなりました。〔協力：MSD 株式会社、各地ユネスコ協会〕



### Ⅲ. 東日本大震災復興支援活動

#### ◆MUFG-ユネスコ協会復興育英基金

1. 三菱 UFJ フィナンシャル・グループの資金援助を得て、小学 1 年から高校 3 年までの遺児・孤児 1,048 名に奨学金を給付しています。(平成 27 年 2 月現在)
2. 被災した幼稚園、小学校、中学校の花壇を再生するプログラムに三菱東京 UFJ 銀行、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ (MFUG) と協会連盟の役職員がボランティア参加しています。平成 26 年度は合計 3 校に対して実施し、のべ 60 名のボランティアが MUFG から参加しました。



#### ◆ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災によって、著しく経済状況が悪化した家庭の子どもたちのために、これまで 16 市町村(岩手県陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、下閉伊郡山田町、大船渡市、宮城県気仙沼市、石巻市、南三陸町、東松島市、仙台市、名取市、女川町、山元町、福島県相馬市、南相馬市)の奨学生 2,153 名に、奨学金を給付してきました。(平成 27 年 2 月現在)

#### ◆コミュニティ再生支援

1. 平成 26 年 7 月 13 日～7 月 16 日、音楽を通じた教育支援を実施する日本フィルハーモニー交響楽団と連携し、ミニコンサートを岩手県釜石市の被災地の学校児童と仮設住宅の市民を対象に開催しました。〔現地協力:釜石ユネスコ協会、協力:三菱UFJニコス株式会社〕
2. 平成 26 年 7 月 24 日～26 日、宮城県気仙沼市にて子どもたちの学力向上のニーズをくみ取り、現地の旅館や学校と協力し、「辞書引き学習プログラム」を実施しました。〔協力:ベネッセホールディングス〕
3. 平成 26 年 8 月 29 日、岩手県大船渡市教育委員会からの要請を受け、平泉の世界遺産学習支援旅行を津波被害を受けた越喜来中学校児童 22 名を対象に実施しました。〔現地協力:大船渡ユネスコ協会、平泉ユネスコ協会、協力:ユービーアイソフト株式会社〕



#### ◆アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム

今後起こりうる自然災害に備えるため、減災(防災)教育に取り組む小・中・高校への活動助成を行っています。平成 26 年 7 月の助成金審査会を経て 20 校に助成金支援を行いました。また、平成 26 年 9 月 15 日～17 日に宮城県気仙沼市にて助成校の教員計 30 名を招聘し、東日本大震災の経験を活かした防災教育について学ぶ研修を実施し、さらに平成 27 年 2 月 24 日に東京にて活動報告会を開催しました。〔協力:アクサ生命保険株式会社、現地協力:気仙沼市教育委員会〕



#### ◆力士会による相撲場復興

力士会(会長:横綱白鵬関)のご協力により、岩手県山田町につづき、宮城県気仙沼市に相撲場が完成しました。平成 26 年 8 月 14 日には白鵬・鶴竜両横綱をはじめ、8 力士、小野寺前防衛大臣、松田会長らが出席し、落成式が行われました。〔現地協力:気仙沼ユネスコ協会〕



◆青少年ボランティア交流ツアー

平成 26 年 8 月 16 日～20 日まで、全国から集まった高校生を中心とする青少年 29 名が岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、気仙沼大島をバスで訪問するボランティア交流ツアーに参加し、被災地の視察をしたほか、現地の高校生や被災者との交流、ゆず農家での下草刈り作業などのボランティア活動に従事しました。〔現地協力:気仙沼ユネスコ協会〕



#### IV. 世界寺子屋運動

##### ◆アフガニスタン寺子屋プロジェクト

①カブール県パグマン郡での寺子屋建設、②カブール市内やバーミヤン県の寺子屋での識字クラスの実施、③各地寺子屋での収入向上・職業訓練を中心に事業を実施しています。

パグマン県での寺子屋建設は、9月に測量開始、整地と基礎工事を始めました。冬に入り土地が凍結して工事ができなくなったため、3月から工事再開の予定です。識字教室については、カブール市内13地区で基礎的識字 2クラスと識字後クラス18クラスが、バーミヤン県では識字後クラスが5クラス開かれ、約580人が文字の読み書きができるようになっています。



また日本のNPO法人ジャパン・プラットフォームからの支援で、カブール市近郊の国内避難民キャンプで約500人が識字クラスに通うことができるようになりました。[協力:認定NPO法人ジャパンプラットフォーム]



##### ◆「忘れないでアフガニスタン」キャンペーン

平成26年11月にロンドンで開催されたアフガニスタン復興支援国際会議。これに合わせて、世界20カ国以上で「忘れないでアフガニスタン」キャンペーンが行われました。日本では、平成26年11月24日に東京・築地本願寺にて、日ユ協連を含む、日本でアフガニスタン支援を行う16のNGO団体が映画の上映やパネルディスカッション等の企画を行いました。



◆アンコール寺子屋プロジェクト(カンボジア)

シェムリアップ州スヴァイレウ郡に13軒目の寺子屋が完成しました。平成27年2月20日に行われた完成式典にはハン・チュオン・ナロン・カンボジア教育省大臣も臨席しました。寺子屋では、引き続き識字教育のほか、中途退学した子どもたちへの復学クラス及び親の収入向上活動を実施。自転車や通学バッグ、給食サービスも提供しています。平成26年度は625名の成人男女と150名の子どもが寺子屋で学ぶ機会を得ました。更に、リエンダイ寺子屋のココナツ製品など、寺子屋の手工芸品がタ・プローム寺院の土産物店で販売を開始。寺子屋の収入向上と将来の自立促進を目指しています。

昨年8月には在カンボジア日本国大使館隈丸優次特命全権大使がシェムリアップ州への御公務の際に寺子屋を訪問しました。



◆ネパール寺子屋プロジェクト

南部ルンビニの12地域およびカトマンズの4地域の寺子屋16軒で、学校に行けない子どものための小学校クラスと女性のための識字クラスを実施しました。平成26年度は基礎的識字クラスで約5150人の成人女性が、また中級の識字クラスで約1200人の成人女性が学習しました。今後5年間で対象地域の識字率100%を目指して活動を行っています。



◆「書きそんじハガキ・キャンペーン 2015」

全国から 155 のユネスコ協会が参加し、150 万枚を目標にハガキを回収しました。参加ユネスコ協会向けにハガキ回収事例や寺子屋情報などをまとめたマニュアルを配布。株式会社電通の協力で、新しいキャラクター「書きそんじロー」に加えて「ダンス遺産 3 兄弟」を用いて、フェイスブックやグッズを刷新しました。楽しくご協力いただけるよう、「ダンス遺産 3 兄弟」による映像も制作し、ホームページ等で広報しています。〔協力:電通〕



◆国際識字デーイベント

日ユ協連、シャンティ国際ボランティア会、ユネスコアジア文化センター共催で、平成 26 年 9 月 5 日、国際識字デー(9 月 8 日)に合わせた識字啓発のイベントを実施しました。日ユ協連カンボジア事務所のヴァンタイ職員が現地の識字の状況を伝え、元非識字者であった学習者の生活や価値観の変化などを紹介しました。〔協力:渋谷ユネスコ協会〕



◆公民館-CLC 国際会議(岡山)

世界寺子屋運動を展開しているカンボジア、アフガニスタン、ネパールの寺子屋事業担当者が平成 26 年 10 月 9 日～12 日に岡山で開催された「ESD 推進のための公民館-CLC国際会議」に各国を代表して出席し、世界寺子屋運動の発表を行いました。





#### ◆NHK「日本賞」

平成26年10月21日、NHK「日本賞」で、ネパールのメディア・ヘルプ・ラインが企画した『ハイジャブル村のダリットの少女』に日本ユネスコ協会連盟賞を贈りました。ダリットと呼ばれる低カーストの女性たちが教育を受けることの難しさを描いた作品で、製作費として3,000ドルを支援しています。

### V. 一杯のスプーン支援活動

◆アフガニスタン・カブール市内で母子を対象に医療支援・栄養補助食品を配布しています。一日平均100人以上の患者が診察に訪れ、月約200人の子どもたちに栄養補助食品が届けられています。



◆ネパール・ルンビニの寺子屋 12 軒で栄養不良の子どもたち 4,240 人に対象に栄養補助食品を配布し、ました。並行して、寺子屋スタッフを対象に栄養に関する研修を3回にわたって行いました。

◆カンボジア・シェムリアップ州で貧しい家庭の子どもたちや公立病院で治療を受ける貧しい人びとのために安全な水を供給することを目的に「天空の柱プロジェクト」を実施しています。シェムリアップ州立病院では、大規模な濾過浄水センターを設立。平成27年2月19日に引き渡し式が行われました。また、同州の3軒の郡立病院と12軒の寺子屋では、ろ過浄水装置の設置が進んでおり、平成27年3月末までに工事を終え、稼動を開始する予定です。[協力：株式会社富山環境整備]



## VI. 世界遺産・地域遺産支援活動

◆カンボジア・アンコール遺跡バイヨン寺院彫像修復プロジェクト  
世界遺産「アンコール」遺跡のひとつであるバイヨン寺院のナーガ像やシンハ像の修復活動支援を、日本政府アンコール遺跡救済チーム(JASA)の技術協力のもと、カンボジア NGO (JST:アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構)と協力して行っています。主に、バイヨン寺院外回廊にあるナーガ像・シンハ像の修復・再設置を行うとともに、JASAの20年間の活動によって育成されてきた熟練のカンボジア人から、若手のカンボジア人へと技術を継承していきます。  
ご寄付いただいた個人や企業のお名前を現地の銘板に刻ませていただいています。



◆平成26年12月、『世界遺産年報2015』を発行しました。「富岡製糸場と絹産業遺産群」並びに「シルクロード」を特集し、新規登録の世界遺産、世界遺産委員会報告などを掲載。全国の図書館等へ寄贈しています。〔助成:財団法人日本宝くじ協会。〕また、一般書店でも販売しています。



### ◆ミャンマー・バガン遺跡世界遺産登録支援

日ユ協連は、UNESCOを通じてミャンマーのバガン遺跡世界遺産登録支援事業をサポートすることを決定しました。平成26年12月に野口日ユ協連理事長が現地を訪問した際、UNESCO世界遺産センター所長、UNESCOミャンマー事務所長と共に、ミャンマー政府文化省文化大臣、副大臣と会談を行い、支援について合意を交わし、ミャンマー政府から深い感謝の意が述べられました。



◆未来遺産運動

A) 第6回 プロジェクト未来遺産

長い歴史を超えて人々が守り続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中で作りあげてきた自然遺産という豊かな贈り物を未来に伝えていこうという人々を応援。平成26年12月8日に開催された未来遺産委員会にて、以下の3プロジェクトの登録が決定しました。また平成27年1～3月かけて各登録地域で登録証伝達式が行われました。

プロジェクト名	団体名	所在地
首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子ども達に残す	未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会 登録証伝達式 2015年2月1日(日)	埼玉県さいたま市
「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくり	雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会 登録証伝達式 2015年2月9日(月)	東京都豊島区
被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」	グリーン・レガシー・ヒロシマ・イニシアティブ 登録証伝達式 2015年3月6日(金)	広島県広島市



◆チーム エナセーブ 未来プロジェクト

住友ゴム工業株式会社(ダンロップ)との協働事業として平成25年より開始した「チーム エナセーブ 未来プロジェクト」。平成26年度は、未来遺産登録地など全国10カ所で、同社社員が清掃などのボランティア活動を実施しました。〔協力:住友ゴム工業株式会社(ダンロップ)〕



## VII. 民間ユネスコ運動の振興

### ◆外務大臣表彰受賞

平成26年8月4日、民間ユネスコ運動の功績を称え、岸田文雄外務大臣より日ユ協連の松田昌士会長に、平成26年度外務大臣表彰が授与されました。

◆ブロック別ユネスコ活動研究会を下のとおり、北海道、東北、関東、中部東、中部西、近畿、四国、中国、九州ブロック各地で開催。「ESD/ユネスコスクール」について協議を重ね、会員の研鑽を深めました。

東北ブロック・ユネスコ活動研究会（青森県青森市）	平成26年10月18～19日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会（兵庫県神戸市）	平成26年10月18～19日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会（北海道札幌市）	平成26年10月25日
関東ブロック・ユネスコ活動研究会（群馬県高崎市）	平成26年10月25日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会（長野県木曾市）	平成26年10月25～26日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会（岡山県津山市）	平成26年11月15～16日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会（佐賀県多久市）	平成26年11月15～16日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会（愛媛県松山市）	平成26年11月22～23日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会（福井県福井市）	平成26年11月29～30日

### ◆平和の鐘を鳴らそう！

平成26年7月19日の民間ユネスコ運動の日から8月15日の終戦記念日にかけて、全国101のユネスコ協会が「平和の鐘を鳴らそう！」を実施。平和を願って鐘を鳴らしたほか、戦争体験を聞く、当時の食文化を体験する、平和についてディスカッションする、募金活動を行うなど、幅広い活動が行われ、30以上のユネスコ協会がメディアに取り上げられました。



### ◆ユネスコ子どもキャンプ

平成26年8月6日～9日まで、岐阜県岐阜市少年自然の家にて「一步 知らない自分みつけた！」をテーマに第46回ユネスコ子どもキャンプが開催され、小学4年生～中学3年生までの子ども46名並びに青年スタッフ延べ66名が参加しました。（主催：日本ユネスコ協会連盟、岐阜県ユネスコ協会）



## VIII. 国際交流事業

### ◆アジアの子どもたちの絵日記展

1990年より実施している「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」。これまでの25年間にグランプリを受賞した、26カ国・地域の子どもの絵日記作品の展示会を平成26年9月9日～19日まで、東京・丸の内で開催しました。(主催:三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、日本ユネスコ協会連盟)



### ◆アジア太平洋ユネスコクラブ連盟〔AFUCA〕執行委員会

平成26年7月18日、中国・長春において、第22回アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟〔AFUCA〕執行委員会が開催され、10カ国から28名が参加しました。今後のAFUCAの在り方やUNESCOの名称・ロゴの使用についての議論が交わされました。



### ◆韓国連盟全国大会への出席

平成26年11月20日～21日に韓国・済州島で開催された、第29回韓国ユネスコ協会連盟全国大会に松田昌士会長、野口昇理事長ほか日本の各地ユネスコ協会から計21名が参加し、旧交を温めました。



## Ⅸ. UNESCO との連携

### ◆UNESCO パリ本部とのパートナーシップ協定

平成 24 年 2 月に UNESCO 本部と日本ユネスコ協会連盟が締結した UNESCO パートナーシップ協定により、日本国内の企業・団体・個人からの支援によって UNESCO のプログラムを支援する枠組みができました。平成 25 年 9 月より ANA が UNESCO 公式サポーターとなり、マイレージプログラムを活用した UNESCO への寄附「UNESCO マイル寄附」を行っています。平成 26 年 9 月には、一ヶ月間 ANA 国内線においてユネスコを紹介する動画が放映されました。また、UNESCO ロゴマークを貼付した機体も運航され、国際線の機内販売誌にて日ユ協連に対する寄附付き商品を販売するなど、多様な協力を得ています。[協力:ANA]



### ◆ボコバ事務局長からのメダル授与

平成 26 年 10 月 21 日、松田昌士会長が UNESCO 本部のボコバ事務局長を表敬訪問。UNESCO との協力協定等、日頃の日ユ協連による UNESCO への協力に対し、ボコバ事務局より松田昌士会長にメダルが授与されました。



### ◆ボコバ事務局長歓迎レセプション開催

平成 26 年 11 月 8 日、ホテルメトロポリタン・エドモンドにて、「ESD に関するユネスコ世界会議」の来日に合わせ、松田昌士会長主催のボコバ UNESCO 事務局長歓迎レセプションを開催しました。[主催:日本ユネスコ協会連盟、協力:イセ食品株式会社]



◆アプリケーションゲーム『世界遺産ランナー』配信

世界遺産の意義を広く周知することを目的に、アプリケーションゲーム『世界遺産ランナー』の無料配信を平成 27 年 2 月から開始しました。本ゲームは UNESCO との連携により実現したもので、UNESCO の世界遺産保護活動に寄付できる仕組みとなっています。[制作:株式会社 DeNA, 株式会社 NHK エンタープライズ、ANA]



X. 普及広報活動

◆日ユ協連ホームページにて活動ニュースやブログなどで情報を定期的に発信しています。

◆フェイスブックでは、世界寺子屋運動、世界遺産、東日本大震災の支援地の情報、トピックスなどをいち早く発信し、多くの人びととの情報共有を図っています。登録者は、平成 27 年 2 月末時点で 2,557 名。

<http://www.facebook.com/unesco.or.jp>

◆機関誌「ユネスコ」10月号、1月号を発行しました。10月号よりページ数を増やし、「ユネスコ活動の広場」を充実させました。

◆ユネスコ情報マガジン(メール配信)第 201～204 号を発行しました。



◆都市対抗野球大会

平成 26 年 7 月 29 日、東京ドームにて第 85 回都市対抗野球大会が行われ、優勝した西濃運輸(岐阜県大垣市代表)に対し、日本ユネスコ協会連盟会長賞が贈られました。



## 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく

ACCU はアジア太平洋地域の人々と共に学びの輪を広げます

### <人をつなげる、未来をつなげる>

ユネスコの精神を実現する学校、地域、人のネットワークの拡大と充実のために・・・

◆持続可能な開発のための教育(ESD)を推進し、ユネスコスクールを応援しています

#### 日本ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省の委託を受け、事務局としてユネスコスクール公式ウェブサイトを運営し、ユネスコスクール加盟を検討している学校の相談窓口となり、また申請の事務手続きのサポートを行っています。

加盟希望校が申請書をまとめる際の手引きを ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)加盟大学の協力を得て、新しく用意しました。

<http://www.unesco-school.jp/>

海外のユネスコスクールとの交流をサポートします！



<http://www.unesco-school.jp/startexchange.j/>

「世界中のユネスコスクール・ネットワークを活用し、海外の学校、児童生徒間、教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」を身近に、簡単に実践してもらえるように、交流先の斡旋を行っています。30以上のユネスコ加盟国のユネスコスクール担当者にもよびかけ、交流の輪が広がるように、支援しています。

#### ユネスコ世界会議関連事業

ーユネスコスクール世界大会・全国大会・教員フォーラム

「国連 ESD の 10 年」の最終年となった 2014 年、岡山市で「高校生フォーラム」、「教員フォーラム」及び「ユネスコスクール全国大会」からなるユネスコスクール世界大会が開催されました。

ACCU は「教員フォーラム」の企画・運営、そして「ユネスコスクール全国大会」の分科会の企画・運営を担当しました。世界大会では、ESD の 10 年の成果と課題を共有して新たな誓いと提案をする目的で ESD 推進のためのユネスコスクール宣言「ユネスコスクール岡山宣言」が採択されました。この宣言には ACCU が起草段階から携わり、全国から募集したメッセージに加えて、これまでの事例や交流会の報告書などから教育現場の声が入り込まれました。

また、この世界大会に合わせて、国内のユネスコスクールから ESD の実践事例を募集しました。146 校の応募の中から、84 校を選出し「ESD 優良実践事例集」(日英版)を制作しました。さらに、この中から 22 校を採択し、全国大会の分科会にて事例の発表の場を持ちました。



『ユネスコスクール ESD 優良実践事例集』  
\* 文部科学省の委託により本事業を実施

教員フォーラム当日の様子

## 国際プロジェクトの実施

### ーESD Rice プロジェクト

本プロジェクトは「お米」を国際協同学習の共通のテーマとし、持続可能な社会のための「変化の担い手」となる若者を育成することを目指しており ACCU が 2011 年より実施しています。

本フェーズ(2013～2015 年)は次の5点に焦点を当てたプロジェクトを行いました。第 1 にユネスコスクール間の国際協同学習の推進、第 2 に「変化の担い手」となる若者の育成、第 3 に ESD の推進、第 4 に学校と地域に根ざした学習の推進、第 5 に現職教員研修です。

2014 年 9 月にはインドネシアのマランにてプロジェクト参加校の教員を対象とした ESD Rice ワークショップを開催しました。本ワークショップではプロジェクトの課題と今後の方向性について参加者が話し合い、参加校も訪問しました。また、プロジェクト期間中 3 つの国際協同学習が実施されました。

- ・小学校を対象とした田んぼと将来の理想の地域開発について考える学習
  - ・高校生中心とした遺伝子組み換え米から考える食の持続可能性について考える学習
  - ・中学生と高校生が協同した、水問題が稲作や米食に及ぼす影響について考える学習
- どの学校も次年度以降も継続してプロジェクトが実施されることを望んでいます。

\*ユネスコの委託により本事業を実施

プロジェクトのウェブサイト:<http://www.esdriceproject.com/>



写真左:インドネシアの高校生がお米の重要性を伝えるために作成したポスター

写真右:2014 年 9 月にインドネシアで開催した ESD Rice ワークショップの様子。国際協同学習の内容とスケジュールの調整もワークショップ期間中に行いました。

## －COE プロジェクト

ACCU はアジア太平洋地域の 4 団体を持続可能な社会のための教育(ESD)を推進する拠点「COE (Centre of Excellence)」として支援しています。タイ、バングラデシュ、スリランカ、オーストラリアにある 4 団体でそれぞれの特徴を活かして独自の観点やテーマから ESD 推進事業を実施しました。

- ・TEI (タイ)は環境教育の普及、
- ・DAM(バングラデシュ)はマングローブ生息地帯の最貧層住民の生活向上、
- ・TVEAP(スリランカ)は視聴覚教材を通しての教育、
- ・ASPBAE(オーストラリア)は独自の会員団体ネットワークを通じた気候変動への啓蒙活動など

活動は 2014 年 10 月に終了しましたが、各団体はフォローアップ計画を立て、この事業での活動を継続していく予定です。

\*ユネスコの委託により本事業を実施

### パキスタンで若者主体のコミュニティ開発のための事業の実施

南アジア地域の若者(15～35 歳)がみずから持続可能なコミュニティ開発を遂げるよう、ESD を通して支援を行う本プロジェクトは 2014 年より ACCU が新たに実施している事業です。

本事業の目的は第 1 に、若者の主体的な学びを通して持続可能なコミュニティを創造する「変化の担い手」を育成すること。第 2 に、「変化の担い手」が地域の持続可能な開発に向けて具体的な活動を起こすことです。パイロットフェーズとして位置づけられた本年度はパキスタン国パンジャブ州にある 2 か村、60 名の男女を対象に、現地 NGO と協同して事業を行いました。

基礎調査を通して明らかになった村の持続可能な開発を阻害する要因に対して、たとえば若者グループは各村の初等教育未就学児に関する課題には、就学キャンペーンや未就学の子どもがいる家庭訪問等を通して就学率の100%を達成しました。事業の終盤の2014年12月にはパキスタンで国際シンポジウムを開催し、パキスタンの計画開発・改革連邦大臣やパンジャブ州人口福祉大臣、パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局副次官にも参加頂き、事業の成果報告と今後の事業の展開について検討しました。特に事業対象地の郡教育担当者などからは、継続的な活動の要請と今後の協働の可能性について打診を受けました。

\*平成26年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業により実施



写真左:プロジェクト初期、人前で話せなかった女性も今では自信を持って発表しています

写真右:プロジェクトに参加した女性と地域の子どもたち。これまで教育を十分受けられなかった女性も事業を通してESDで強調されている様々な思考力を養っています。

## 公民館とアジアの CLC(コミュニティ学習センター)の交流

「ESD に関するユネスコスクール世界会議」の関連会議として「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議～地域で学び共につくる持続可能な社会」が 2014 年 10 月に岡山市で開催され、日本および海外 26 か国、約 700 人の参加者が出席しました。3 日間の会議中は基調講演、パネルディスカッション、分科会などで「共通の問いかけ」を設定したり「隣の人と意見交換する時間」を設けたりと参加者の意見交換を促進するようファシリテーションを行い、意見をできるだけ汲み取るようにしました。

成果文書は「岡山コミットメント」として最終日に発表されました。会議期間中に掲示板に文案を貼り付けコメントを促すなど全体会、分科会での議論をできるだけ反映させた参加型の運営が高い評価を得ました。

\*岡山市の委託により本事業を実施

## ESD をテーマにした教職員の国際交流

ー韓国に日本人教職員を派遣しました

ACCU では日韓、日中間で初等中等教職員交流プログラムを実施しています。

韓国ユネスコ国内委員会協力のもと、「韓国政府日本教職員招へいプログラム」を実施しました。(2014 年 8 月 26 日～9 月 1 日)。

訪韓に先立ち 7 月 30 日にオリエンテーションを実施しました。韓国の教育について学び、発表や交換授業の計画を練るなど、訪問の準備を整えました。日本教職員はソウルのほか、忠清北道または江原道を訪問し、学校訪問等により韓国での ESD の実践事例を視察しました。



中国への派遣プログラムは、中国教育部協力のもと、2015 年 5 月に実施を予定しています。

ー中国・韓国から教職員を招へいしました

中国教職員については、合計 126 名を 3 回に分け、それぞれ 2014 年 9 月 21 日～29 日、10 月 19 日～27 日、11 月 16 日～24 日に招へいしました。

9 月のプログラムでは、主に吉林省と山西省の教職員で構成された 29 名が訪日し、東京近郊の国・公・私立の学校を訪問して日本の初等中等教育の現状を学びました。

10 月のプログラムでは、四川省と湖北省の教職員で構成された 34 名が東京近郊の学校と多摩市を訪問しました。

11 月のプログラムでは、内モンゴル自治区、広西チワン族自治区、貴州省の教職員で構成された 63 名が東京近郊の学校を訪問後、2 グループに分かれてそれぞれ熊本県荒尾市と長崎県長崎市を訪問しました。



韓国教職員については、98 名を 2015 年 1 月 18 日から 26 日に招へいしました。日本到着後、文部科学省による、「日本における初等中等教育」や「日本における ESD の推進」についての講義を受けた後、

東京近郊の学校を訪問しました。その後、32～33名ずつの3つのグループに分かれ、それぞれ千葉県八千代市、千葉県、和歌山県を訪問しました。

\*国際連合大学の委託により、本事業を実施

-その他、2015年度も日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)の委託により、「ESD 日米教員交流プログラム」を実施します。

#### ◆次世代のグローバルリーダーを応援しています(模擬国連推進事業)

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人/グローバルなリーダーを育成することを目的にグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連事業を実施しています。



このプログラムは英語によるプレゼンテーション能力はもとより、交渉を通じてより良い解決策をさぐるなど課題に対する総合的な処理能力を鍛えること、同世代の交流を通じてコミュニケーション力を高めることを通じてグローバルな社会を担う未来のリーダーを育てることを目的としています。

一次予選を突破した82チームの高校生が第八回全日本高校模擬国連大会に集い、「食料安全保障」をテーマに担当国大使として活発で熱心な発表と討議を行いました(2014年11月15日・16日、会場:国際連合大学ウ・タント会議場、エリザベス・ローズ会議場)。今回は、初めて二つの議場を使つての会議を行い、より多くの高校生に大会に参加する機会を提供しました。厳正な審査の結果受賞校8校を選出し、そのうち最優秀賞、優秀賞を受賞した6校を2015年5月にニューヨークで開催される国際大会に派遣します。

【最優秀賞】会議A:実践女子学園高等学校Aチーム(サウジアラビア大使)

会議B:桐蔭学園中等教育学校Aチーム(イタリア大使)

【優秀賞】会議A:六甲高等学校(ドイツ大使)、聖心女子学院高等科Aチーム(マダガスカル大使)

会議B:渋谷教育学園渋谷高等学校Bチーム(ドイツ大使)、灘高等学校Aチーム(アメリカ大使)

【ベストポジションペーパー賞】会議A:聖心女子学院高等科Bチーム(インドネシア大使)

会議B:京都市立西京高等学校(コロンビア大使)

## ＜すべての人に教育を、すべての人に笑顔を＞

ユネスコの推進するEFA(Education for All、万人のための教育)の目標を達成するために・・・

### ◆母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトを実施しています

「読み書きを学び、子どもに勉強を教えたい。」「自分がモデルとなり、子どもが学校に通うように励みたい。」「子どもを健康に育てるための食事について学びたい。」そんな思いを胸に、小さな子どもたちを育てるカンボジアのお母さんたちは、SMILE Asia プロジェクトの識字教室に通っています。



SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの7か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で、識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。

2013～14年は首都プノンペンから約1時間半離れたカンポン・スプー州で現地団体CWDA(カンボジア女性開発機構)とプロジェクトを実施しました。約100名の女性が識字教室に参加し読み書きや家計簿作り、栄養バランスのとれた食事など生活に役立つ知識を学びました。2014～15年はプノンペン市に新しく編入された地域で活動を開始しています。

このプロジェクトは凸版印刷株式会社をはじめ、皆さまからのご寄附により行っています。

口座名	ACCU アジアの女性識字振興基金
口座番号	00120-7-365298(ゆうちょ銀行)

国際識字デーイベントとして他団体とともに「カンボジアの人びとの未来と夢 識字教室から」をテーマに講師と現地NGOスタッフによる報告会を開催しました。(2014年9月5日)

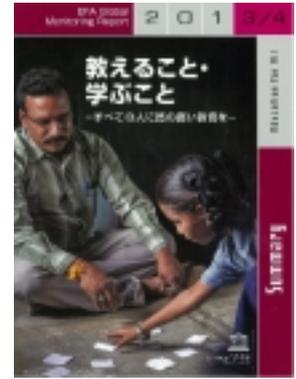
### ◆アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトへ職員を派遣しています

JICA(独立行政法人国際協力機構)が実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ2」に職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。これまで開発した識字教室のモニタリングや学習達成度評価ツール等の使用状況を調査し、修正・最終化を行い、全34州・カブール市の識字局に配布したほか、識字教師による授業を改善するため、どのように助言を行うべきか等についてカブール市で研修を行いました。治安状況の問題により、アフガニスタンへの日本人の渡航が難しいため、識字局職員やプロジェクト現地職員をインドとパキスタンに招へいし、話し合いや研修を実施しました。また、パキスタンでJICAが実施している「ノンフォーマル教育促進プロジェクト」の協力を得て、アフガニスタン識字局職員の能力強化研修を2014年10月に実施しました。



◆世界の識字状況を知ってもらうためにデータを公開しています

ユネスコのグローバルモニタリングレポート「2013/14 概要 (テーマ: 教えること・学ぶこと—すべての人に質の高い教育を)」の日本語版をJICA、教育協力NGOネットワークとともに発行し、希望者に配布して教育現場で活用されています。ご希望の方はACCU教育協力部 education@accu.or.jp まで、メールにて御連絡ください。



<共にひきつぐ、文化と伝統>

奈良にある文化遺産保護協力事務所(ACCU 奈良事務所)では、ユネスコや ICCROM(文化財保存修復研究国際センター)など国際機関と連携して、専門家育成のための研修、文化遺産保護に関する情報発信などを行っています。

◆文化遺産保護の大切さを知ってもらうために・・・



奈良県内の高校で日本や諸外国の世界遺産を題材に「世界遺産教室」を開催しました。世界遺産を通じ、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらうことをめざして 2005 年から毎年行っています(2014 年 9 月 9 日奈良県立西の京高校、10 月 7 日奈良県立十津川高校、11 月 14 日奈良県立五條高校)。

文化遺産国際セミナー「木が伝える奈良の文化財」を奈良市で開催しました(2015 年 2 月 7 日)。  
\*奈良県・奈良市補助金により、本事業を実施。

◆文化財の保存修復を担う人材育成のために・・・

バヌアツから文化遺産を担当する政府職員 2 名を招いて「遺跡の調査・保存と管理活用」について研修を実施しました(2014年7月31日～8月21日)。



アジア太平洋地域 16 か国 16 名の専門家を招き、「遺跡・遺物の調査と保存」をテーマに一か月にわたって集団研修を実施しました(9 月 2 日～10 月 3 日)。

ブータンから政府職員 3 名を招いて「写真による文化遺産の記録とデジタルデータの管理・活用」をテーマに研修を実施しました(11 月 11 日～12 月 5 日)。

文化遺産に関わる国際会議を中国の上海で開催しました。テーマは「木造建造物の保存理念を再考する—木造建造物のある文化的景観と地域社会—」(12 月 16 日～18 日)。

文化遺産ワークショップをバングラデシュのダッカで実施しました。テーマは「考古遺物の記録方法」(左写真、2015 年 1 月 11 日～16 日)。

\*文化庁からの委託により、本事業を実施。

なお、過去に研修に参加したアジア太平洋地域の専門家に自国の文化財保護活動についての報告を依頼し、ACCU Nara International Correspondent としてまとめています。ACCU 奈良事務所のウェブサイトからダウンロード可能です。

2014 年度の取り組みを文化遺産ニュース Vol.27 にまとめ、3 月に発行します。

### <ACCU 広報活動>

◆パンフレット、機関紙 ACCU ニュース、ウェブサイト、Facebook を活用して、ACCU の活動内容、最新情報を伝えています。

ACCUnews 394 10 月発行 特集 若者と地域開発@パキスタン

ACCUnews 395 2 月発行 特集 ユネスコスクール世界大会

【ウェブサイト】 <http://www.accu.or.jp>

【Facebook】 <http://www.facebook.com/accu.or.jp>

【奈良事務所ウェブサイト】 <http://www.nara.accu.or.jp/>

◆ACCU ライブラリーの整理、学校授業への協力など

2014 年 5 月にライブラリースペースを縮小し、その後も所蔵図書や資料を大学図書館、公立図書館、学校、関連団体に寄贈して整理を行いました。寄贈先の展示などにも協力しています。現在は ACCU の制作物を中心に所蔵し、閲覧や貸出希望に対応しています。

また、学校からの依頼で中学生の訪問を受け入れ、ACCU とユネスコ活動について若い世代の理解を得るために説明を行って、授業に協力しました。

「ACCU アジア太平洋 ESD フォトメッセージコンテスト」受賞作品写真パネルを貸し出し、ESD への理解を深める機会を提供しました。

### <東日本大震災募金活動>

ACCU は東日本大震災被災地の教育復興の支援として、ACCU ウェブサイト、ユネスコスクール公式ウェブサイトで協力をよびかけ募金を行っています。この募金は全額被災地の教育復興のために使っていただいています。2015 年 1 月には福島県の教育委員会にお送りし、震災による原発被害などからの教育環境の復興に役立てていただきます。

引き続き募金の継続を呼びかけ、長期的な支援をめざします。

◆東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金

三菱東京 UFJ 銀行	ゆうちょ銀行
支店名:神楽坂支店(店番号:052)	口座記号番号:00120-1-718642
口座番号:0057529 預金名:普通預金	口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	

# 日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料

## 国際会議等一覧

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
ESD Conference marking the end of the Decade	26.9.30-10.1 (ボン・ドイツ)	ESD に関するユネスコ世界会議へ向けてドイツ国内外の「国連ESDの10年」を総括する会議で、加藤国際統括官がESDに関する日本の取組と世界会議について発表を行った。	加藤重治文部科学省国際統括官
第195回執行委員会	26.10.15-30 (パリ・フランス)	現行予算の執行状況及び次期2か年予算案の審議等が行われたほか、ユネスコ設立70周年に係る行動計画の審議等が行われた。	門司ユネスコ代表部大使及び同代表部館員ほか
奈良文書20周年記念会合	26.10.22-25 (奈良県)	「奈良文書」が採択されてから20周年を迎えることを祝するとともに、多様な関係者の参画や持続可能な開発における文化遺産の役割など新たな観点を加えるため、情報共有・意見交換等を実施した。	青柳正規文化庁長官、山下和茂文化庁文化財部長、齋藤孝正文化庁文化財鑑査官、北山浩士文化庁世界文化遺産室長ほか
持続可能な開発のためのユネスコ世界会議ステークホルダー会合	26.11.4-8 (岡山市)	愛知県名古屋市での「閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」に先立ち、岡山市にて、ステークホルダーの主たる会合として、世界各国でESDに取り組む国連機関、研究者、学校関係者、民間企業、NPOなど様々なステークホルダーの会議が開催された。ステークホルダー会合は、①ユネスコスクール世界大会、②ユネスコESDユース・コンファレンス、③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議から構成され、これらの会議の成果は「閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合」へ反映された。	藤井基之文部科学副大臣、赤池誠章文部科学大臣政務官、山中伸一文部科学事務次官、前川喜平文部科学審議官、加藤重治文部科学省国際統括官ほか

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
持続可能な開発のためのユネスコ世界会議	26.11.10-12 (愛知県名古屋市)	「国連ESDの10年」の最終年にユネスコ日本政府の共催により、開催した。開会全体会合には皇太子同妃両殿下も迎え、世界各国から76名の閣僚級を含む1,000名以上が参加し、これまでの活動を振り返るとともに、2015年以降のESDの推進方策について議論した。 成果としては、「あいち・なごや宣言」が採択され、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」の開始が正式発表され、「ユネスコ／日本ESD賞」の創設が発表された。	下村博文文部科学大臣、丹羽秀樹文部科学副大臣、山中伸一文部科学事務次官、前川喜平文部科学審議官、加藤重治文部科学省国際統括官ほか
第9回無形文化遺産保護条約政府間委員会	26.11.24-28 (パリ・フランス)	無形文化遺産代表一覧表への記載の可否等の審議が行われ、我が国提案の「和紙：日本の手漉和紙技術」の「記載」が決定された。	門司健次郎ユネスコ代表部大使及び同代表部館員、青柳正規文化庁長官ほか
3 <sup>rd</sup> Meeting of Senior Experts' Group	26.12.1-2 (パリ・フランス)	教育に関する主要課題、基本原則、未来への道しるべとなる事柄に関するレポート「Rethinking Education and Learning in a Changing World」について議論を行った。	佐藤禎一国際医療福祉大学大学院教授(元日本ユネスコ国内委員会副会長)
第8回文化多様性条約政府間委員会	26.12.9-11 (パリ・フランス)	締約国の取組状況や、文化多様性国際基金等について議論した。	外務省、文化庁、ユネスコ代表部関係者がオブザーバーとして出席

## ユネスコ関係者来日一覧

年月日	来訪者	内容
26.9.1	チェン・タン氏 (Mr. Qian Tan) ユネスコ事務局長補(教育担当)	11月開催のESDユネスコ世界会議について意見交換を行った
26.11.6～11	イリナ・ボコバ氏 (Ms. Irina Bokova) ユネスコ事務局長	ESDユネスコ世界会議に出席したほか、和食無形文化遺産認定書伝達式等に参加した。また、安部総理との会談を行った。
26.11.6～12	チェン・タン氏 (Mr. Qian Tan) ユネスコ事務局長補(教育担当)	ESDユネスコ世界会議出席
26.11.9～13	スー・ヒャン・チョイ氏 (Ms. Soo Hyang Choi) ユネスコ教育局部長	ESDユネスコ世界会議出席
27.1.27	アンジェラ・メロー氏 (Ms. Angela Melo) ユネスコ社会統合・ユース部長	ユネスコのユース活動及びアンチ・ドーピングに係る取組について意見交換を行った。

## 国内委員会会議

年月日	会議名	主な内容
26.9.8	第31回MAB計画分科会	・ユネスコエコパークについて、平成27年申請に向けて検討を行っている団体からの申請書概要に関する審議
26.12.3	第10回ユネスコ記憶遺産(MoW)選考委員会	・我が国におけるユネスコ記憶遺産の選考・申請手続について
27.1.19	第11回ユネスコ記憶遺産(MoW)選考委員会	・ユネスコ記憶遺産(国際登録)の国内公募における選考基準について
27.2.13	第133回教育小委員会	・ESDに関するユネスコ世界会議について(報告) ・今後のESDの推進方策について(審議)
27.2.19	第495回運営・第96回普及活動小委員会	・ESDの今後の推進について ・ユネスコ活動の活性化について ・各地域ユネスコ協会の活動報告
27.3.2	第12回ユネスコ記憶遺産(MoW)選考委員会	・ユネスコ記憶遺産(国際登録)の選考基準と国内公募について

## 国内委員会委員人事

発令日	氏名	所属・職名
(新任) 26.12.1	阿部 宏史	国立大学法人岡山大学理事・副学長
	礪田 博子	国立大学法人筑波大学北アフリカ研究センター長
	稲葉 カヨ	国立大学法人京都大学副学長

発令日	氏名	所属・職名
(新任)		
26.12.1	及川 幸彦	気仙沼ユネスコ協会理事、国立大学法人宮城教育大学 国際理解教育研究センター協力研究員
	岡田 元子	防府ユネスコ協会理事、防府市おもてなし観光課花燃ゆ 推進室長
	香川 俊介	財務事務次官
	河内 順子	徳島ユネスコ協会会長
	古賀 信行	野村ホールディングス野村証券取締役会長、日本経済団 体連合会副会長
	妹島 和世	建築家、妹島和世建築設計事務所代表
	西尾 章治郎	国立大学法人大阪大学大学院情報科学研究科教授
	横山 恵里子	一般社団法人新潟市ユネスコ協会理事・事務局長
27.2.14	小此木 八郎	衆議院議員
	萩生田 光一	衆議院議員
	中川 正春	衆議院議員
	松野 博一	衆議院議員
(再任)		
26.12.1	青野 由利	毎日新聞論説室専門編集委員
	植松 光夫	国立大学法人東京大学大気海洋研究所附属国際連携 研究センター長
	長 有紀枝	立教大学社会学部教授、認定特定非営利活動法人難民 を助ける会理事長
	西園寺 裕夫	公益財団法人五井平和財団理事長
	見上 一幸	国立大学法人宮城教育大学長
	吉見 俊哉	国立大学法人東京大学副学長
(退任)		
26.11.1	村上 政俊	衆議院議員
26.11.25	加藤 重治	文部科学省国際統括官
26.11.30	青野 正	新居浜ユネスコ協会会長
	宇佐見 恵子	茨城・水戸ユネスコ協会会長
	岡崎 天隆	岩国ユネスコ協会会長
	金澤 一郎	国際医療福祉大学大学院長

発令日	氏名	所属・職名
(退任)		
26.11.30	鈴木 邦雄	国立大学法人横浜国立大学長
	高橋 淑子	国立大学法人京都大学大学院理学研究科教授
	野村 萬斎	狂言和泉流狂言師
	堀川 一晃	エリーニ・ユネスコ協会会長 (大阪)
	三木 繁光	株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問

### 国内委員会事務局人事異動

発令日	氏名	異動後所属・職名	異動前所属・職名
26.7.25	秋葉 正嗣	文部科学省大臣官房付	国連大学上席学術プログラム担当官
26.7.25	平山 大	文部科学省国際統括官付専門官	文部科学省生涯学習政策局政策課課長補佐
26.11.20	杉江 達也	文化庁長官官房政策課専門官(併)内閣官房副長官補付内閣官房知的財産戦略推進事務局	文部科学省国際統括官補佐
26.11.25	加藤 重治	(独)理化学研究所理事長特別補佐	文部科学省国際統括官 日本ユネスコ国内委員会事務総長
26.11.25	山脇 良雄	文部科学省国際統括官 日本ユネスコ国内委員会事務総長	文部科学省大臣官房審議官(研究振興局担当)
26.11.30	岩本 渉	任期満了 (26.4.1～千葉大学エグゼクティブ・アドバイザー)	文部科学省参与
26.12.1	庄司 正人	東京藝術大学国際課長	文部科学省国際統括官付専門官
26.12.8	平山 大	文化庁文化部国語課専門官	文部科学省国際統括官付専門官
26.12.15	荒井 忠行	文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐	文部科学省国際統括官付専門官

## 日本/ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省では、ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、日本ユネスコ国内委員会で重視している事業を国内のユネスコ活動に関係のある機関及び民間団体等へ委託し、広く国民のユネスコ活動への参加の促進、更にはユネスコ活動の普及と理解の促進を図るため、日本/ユネスコパートナーシップ事業を実施しています。〔平成 27 年度予算案:73 百万〕

### 【平成 27 年度の事業テーマ】

ネットワークを通じた ESD (持続可能な開発のための教育) の推進等ユネスコ活動の普及・促進及び ESD に関する調査研究

### 【委託事業の内容】

上記事業テーマに沿った、以下の活動について公募を行う。

#### (1) ユネスコスクール支援事業

##### ① ユネスコスクール事務局運営

- ユネスコスクール加盟申請前の申請書類(記入方法など)についての相談対応
- ユネスコスクール申請書類受理・チェック(内容確認、書類不備、誤字脱字等)
- ユネスコスクール加盟後の活動にかかる支援
  - ・国内外のユネスコスクールの活動内容などの情報提供
- ユネスコスクール間の交流促進のための活動支援
  - ・マッチングサイトの充実・紹介・誘導
- グッドプラクティスの収集
- ユネスコスクールネットワークづくり
- ESD の普及促進活動
  - ・ユネスコスクール以外の学校に ESD を広めるための活動

##### ② ユネスコスクールホームページ運営管理

- ユネスコスクール公式ホームページの日本語版及び英語版の管理運営
  - ・日英ホームページの運営管理
  - ・各ユネスコスクールの活動報告、ユネスコスクール関連各種事業案内、グッドプラクティスや ESD 教材の紹介、国内外ユネスコスクール間交流のためのマッチングサイトなどユネスコスクールホームページコンテンツのアップデート等

##### ③ ASPUnivNet 事務局運営

- ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの加盟申請やユネスコスクール活動を支援する 18 大学で構成されるネットワークである ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク) の事務局の運営。
  - ・加盟大学間、加盟大学と文部科学省間の連絡調整
  - ・ASPUnivNet 加盟各大学との本パートナーシップ事業再委託にかかる事務処理・調整
  - ・ASPUnivNet 連絡会議開催(年 2 回程度)
  - ・ASPUnivNet パンフレットの作成 等

##### ④ ASPUnivNet 加盟各大学の事業

- ASPUnivNet 加盟大学を通じた ESD 推進拠点としてのユネスコスクール支援
  - ・ユネスコスクール申請前、申請内容(活動内容等)についての相談、ユネスコスクール加盟

後の活動にかかる支援

- ・ユネスコスクール事務局と連携してのユネスコスクールアンケートの作成・実施・分析
- ・ユネスコスクール事務局と連携したユネスコスクール等の教員を対象とした研修の開催 等

(2)ユネスコスクール関係者の全国規模での意見交換、情報共有に関する事業

- 全国のユネスコスクール関係者が一堂に会し、グッドプラクティスを共有し、ユネスコスクールの課題等についての意見交換を行う事業を開催する。ESD に関するユネスコ世界会議のフォローアップ、これまで(DESJ)の取組の成果や評価についても共有を図る。

※開催地については、文部科学省と協議の上決定する。

(3)ユース世代の意見交換、情報共有に関する事業及びユース世代の意見交換のためのプラットフォーム構築事業

- ①ユース世代の意見交換、情報共有に関する事業の開催  
ユース世代が一堂に会して、ESD をテーマに議論するフォーラム等を開催する。
- ②ユース世代の意見交換のためのプラットフォームの構築  
ユース世代が継続的に交流を行うことのできる SNS を利用したプラットフォームを検討するとともに構築を目指す。

(4)ユネスコエコパークのネットワーク構築事業

- 国内ユネスコエコパークに共通する課題の解決に向けた議論や優良事例の情報共有を行うことにより国内ユネスコエコパークの活動活性化に資するため、ユネスコエコパークの国内ネットワーク構築のための取組を行う。

(5)教員研修プログラムのあり方に関する調査研究

- 各ユネスコスクール、教育委員会等との連携のもと、学校現場で ESD の取組を適切に行い、指導計画を作成できる実践的能力を育成する教員研修プログラムのあり方を調査研究し、教員研修プログラムの開発を目指す。

(6)ESD の教育効果(評価)に関する調査研究

- 各個人に今後求められる資質・能力の向上に ESD がどのように貢献するのかを理論的・実証的に明らかにするため、ESD の評価の枠組みを提案すること。
- 国内のユネスコスクール等 ESD を実践してきた学校の取組が、児童生徒、教員、地域などにもたらした効果とその評価手法の事例を収集する。

【公募期間】

平成 27 年 2 月 9 日～3 月 2 日

(スケジュール)

平成 27 年 2 月 9 日	公募開始
3 月 2 日	公募締切
3 月	審査委員会の開催
3 月	採択結果通知及び事業計画書提出依頼
3 月～4 月上旬	事業計画書精査
4 月上旬～4 月中旬	契約書の取り交わし

4月～平成28年3月18日 事業実施

【参考:平成26年度実施事業】(委託総額:47百万円)

(事業テーマ)

ユネスコスクール活動に基礎を置いた持続可能な開発のための教育(ESD)の普及・促進のための活動の実施

#### 一次募集

- ASPUnivNet 運営管理事業(国立大学法人岡山大学)
- ユネスコスクール事務局運営及びユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))
- 世界遺産学習全国サミットの開催を含むESD並びに世界遺産学習の普及・推進事業(奈良市)
- ユネスコエコパークを活用したESD教材の開発(国立大学法人横浜国立大学)

#### 二次募集

- 持続可能な開発のための教育(ESD)の全国的かつ国際的な普及促進に資するための活動(国立大学法人宮城教育大学)

### ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)

文部科学省では、本年度から、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的として、本事業を実施しています。

[平成27年度予算案:57百万円]

#### 【公募期間】

平成27年1月28日～2月17日

(スケジュール)

平成27年1月28日	公募開始
2月17日	公募締切
3月5日	審査委員会の開催
3月中旬	採択結果通知及び補助金申請書提出依頼
3月下旬	補助金交付申請書提出
	補助金交付審査
4月上旬	補助金交付決定及び通知
交付決定日～平成28年3月31日	補助事業実施

【参考:平成26年度実施計画】(補助総額:37百万円)

- 東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材の育成とESD地域モデルの創出(宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成によるESD推進事業(金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム(三重大学)
- グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進ー国際(Think global)と国内(Act local)の融合ー(奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(福岡県大牟田市教育委員会)

## 政府開発援助ユネスコ活動費補助金

文部科学省では、民間ユネスコ活動への助成を通じて、我が国のユネスコ活動の進展並びにユネスコを通じた交流の促進に寄与することを目的として、民間のユネスコ活動の振興に資する事業を行う団体に対して、「政府開発援助ユネスコ活動費補助金」(アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業)による補助を行っています。

[平成 27 年度予算案:32 百万円]

### 【平成 27 年度公募期間】

平成 27 年 1 月 21 日～2 月 17 日

#### (スケジュール)

平成 27 年 2 月 17 日	応募書類の提出締切
3 月中旬	審査委員会の開催
3 月下旬	採択結果通知及び補助金交付申請書提出依頼
4 月	補助金交付申請書提出 補助金交付審査
4 月～5 月	補助金交付決定及び通知
交付決定日～平成 28 年 2 月 29 日	補助事業実施

### 【参考:平成 26 年度実施計画】(補助総額: 57 百万円)

- IOOC/WESTPAC における地域海洋学トレーニングセンター設置準備活動(東京大学大気海洋研究所)
- アジア・太平洋地域6カ国の教育現場における「21 世紀型スキル」育成のための教育活動の現状分析及び参加型教育政策データベースの活用促進(東京工業大学)
- 第 24 回ユネスコ国際水文学(IHP)トレーニング・コース「Forest Hydrology - Conservation of Forest, Soil and Water Resource(森林水文学 - 森・土・水の保全のために)」(名古屋大学)
- ミャンマーにおける持続可能な発展のためのエネルギー科学教育の推進(京都大学)
- アセアン4カ国における教育行財政研修ガイドブックの検証と活用(神戸大学)
- ブータン王国における無形文化遺産および有形文化遺産保護法整備及び普及支援事業(九州大学)
- ユネスコ・教育省・研究者共同によるインクルーシブ教育質向上プログラム(早稲田大学)
- 消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
- 若者主体の持続可能なコミュニティ開発のための学びパイロット事業(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
日光の社寺ポスター	世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会	25.11.22 ～27.3.31 (25.11.22 ～27.3.31)
「2014 年度国際ユース作文コンテスト」	公益財団法人五井平和財団	26.1.20～12.11 (表彰式:26.12.11、 募集期間:26.1.31～6.15)
「アンネ・フランク展:希望の未来」	ホロコースト記念館	26.3.14 ～28.3.31 (26.3.15 ～28.3.31)
エコ絵日記コンテスト 2014	パナソニック株式会社	26.3.24～26.11.12 (26.4 ～26.11.12)
第11回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」	一般社団法人 日本損害保険協会	26.3.27～27.3.31 (26.4.1 ～27.3)
第26回MOA美術館児童作品展	公益財団法人 岡田茂吉美術文化財団	26.3.31 ～27.3.31 (26.4.20 ～27.3.31)
PIECE OF PEACE レゴで作った世界遺産展 part.3 (静岡、大阪)	PIECE OF PEACE 実行委員会	26.4.16～26.8.31 (26.5.23～26.8.31)
守ろう地球のたからもの	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.4.25～27.3.31 (26.4.25～27.3.31)
第 46 回ユネスコ子どもキャンプ	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.4.25～26.8.9 (26.8.6～26.8.9)
Kyoto Intercultural Summer School for Youths	特定非営利活動法人パンゲア	26.5.12～26.8.5 (26.7.31～26.8.5)
第61回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール	外務省、公益財団法人日本国際連合協会	26.5.29～26.10.20 (26.4.1～26.10.20)
第54回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト	外務省、公益財団法人日本国際連合協会	26.5.29～26.10.24 (26.4.1～26.10.24)
「地球っ子広場」活動事業	公益財団法人五井平和財団	26.6. 4～27.3.31 (26.4. 1～27.3.31)
国際農学ESDシンポジウム2014(Ag-ESD Symposium2014)	国立大学法人筑波大学	26.6. 4～26.11.14 (26.11. 10～26.11.14)
第5回ESD大賞	特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム	26.6.18～26.11.8 (26.6.18～26.11.8)
映画「坑道の記憶 ～炭坑絵師・山本作兵衛～」の上映	RKB 毎日放送株式会社	26.6.25 ～28.3.31 (26.7.5 ～28.3.31)

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
映画「坑道の記憶 ～炭坑 絵師・山本作兵衛～」の上 映	RKB 毎日放送株式会社	26.6.25 ～28.3.31 (26.7.5 ～28.3.31)
第101回日本エスペラント大 会	一般財団法人日本エスペラント協会、福 井エスペラント会	26.6.25 ～26.10.13 (26.10.11～26.10.13)
第35回記念世界健康フォー ラム2014・大阪「健康寿 命をのばそう」ー生き方上手 で元気に長生きー	NPO法人世界健康フロンティア研究会	26.7.1～26.11.30 (26.11.13～26.11.13)
未来遺産運動	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.7.3～27.3.31 (26.6.20～27.3.31)
第16回 CHUO 国際教育フ ォーラム	盛岡中央高等学校	26.7.25～26.8.31 (26.8.25～26.8.31)
国際シンポジウム「サステイ ナビリティとジェンダー」	お茶の水女子大学、国連大学	26.8.5～26.11.1 (26.11.1)
PIECE OF PEACE - レゴブ ロックで作った世界遺産展 (東京)	PIECE OF PEACE 実行委員会	26.8.12～26.11.3 (26.9.12～26.11.3)
ESD実践モデル全国会議 2014	「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラ ム	26.8.20 (26.8.20)
ESD 推進のための国際シン ポジウム	千葉大学教育学部	26.8.20～26.11.2 (26.11.2)
第5回千葉県ユネスコスク ール研究会ー第4回千葉県高 等学校ユネスコスクール研 究会ー	千葉県ユネスコ協会連絡協議会、千葉県 高等学校ユネスコスクール連絡協議会	26.8.25 (26.8.25)
アジア ESD NGO ネットワー ク国際ワークショップ 生物 多様性を踏まえたアジアの 持続可能な農山漁村社会の 形成	認定 NPO 法人「持続可能な開発のため の教育の10年」推進会議(ESD-J)	26.9.8～26.10.8 (26.10.8)
第48回北海道ユネスコ大会 2014 年度北海道ブロック・ユ ネスコ活動研究会	北海道ユネスコ連絡協議会、公益社団法 人日本ユネスコ協会連盟	26.9.8～26.10.25 (26.10.25)
ユネスコ「メディア情報リテラ シーと異文化間対話」東京 国際シンポジウム	学校法人法政大学	26.9.8～26.9.24 (26.9.24)
世界結晶年2014記念講演 会「結晶の美しい世界と、私 たちの未来」	世界結晶年日本委員会	26.9.8～26.11.2 (26.11.2)

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
ESD in 三重 2014	国立大学法人三重大学	26.10.2～26.11.12 (26.11.7～26.11.12)
白山ユネスコエコパーク・リレーションシップ	白山ユネスコエコパーク協議会	25.10.3～26.11.29 (26.11.15～26.11.16、 26.11.29)
2015年度 第10回「ロレアル・ユネスコ女性科学賞 日本奨励賞」及び「ロレアル・ユネスコ女性科学賞 日本奨励賞－特別賞」	日本ロレアル株式会社	26.11.17～27.12.31  (26.11.17～27.12.31)
「ESD in 三重 2014」国際会議～ESDに関するユネスコ世界会議の成果・今後の展望	国立大学法人三重大学	26.11.26～26.12.6 (26.12.6)
第3回ユネスコスクールESDパワーアップ交流会	江東区立八名川小学校	26.12.8～27.2.7 (27.2.7)
ユネスコスクール高校生作文コンテスト／第5回 ESD 国際交流プログラム	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.12.19～26.3.28 (26.11.1～26.3.28)
2014年度(第6期)ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.12.25～27.3.31 (26.12.1～27.3.31)
世界一大きな授業 2015	教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)	27.1.26～27.5.31 (27.4.26～27.5.31)
宮崎ジャズデイ・ユネスコ430	宮崎国際ジャズデイ実行委員会、宮崎市民文化ホール	26.1.26 ～27.4.30 (27.4.18～27.4.30)
2015年度国際ユース作文コンテスト	公益財団法人五井平和財団	27.2.23～27.12.1 (27.2.28～27.12.1)

## ユネスコスクール新規加盟校一覧

◆ユネスコスクール加盟状況(平成27年2月現在) 加盟校数:913校

(幼稚園23、小学校475、中学校221、中高一貫校等51、高校121、大学5、高等専門学校1、特別支援学校6、その他10)

平成27年1月22日付け承認(88校)

・愛知インターナショナルスクール (愛知県名古屋市)	・新居浜市立泉川小学校 (愛媛県新居浜市)
・名古屋市立神の倉幼稚園 (愛知県名古屋市)	・新居浜市立宮西小学校 (愛媛県新居浜市)
・北海道教育大学付属札幌小学校 (北海道札幌市)	・北九州市立韃ヶ谷小学校 (福岡県北九州市)
・大河原町立金ヶ瀬小学校 (宮城県大河原町)	・北九州市立藤松小学校 (福岡県北九州市)
・白石市立大鷹沢小学校 (宮城県白石市)	・福島県須賀川市立長沼中学校 (福島県須賀川市)
・いわき市立四倉小学校 (福島県いわき市)	・埼玉県坂戸市立若宮中学校 (埼玉県坂戸市)
・藤岡市立美土里小学校 (群馬県藤岡市)	・金沢市立金石中学校 (石川県金沢市)
・金沢市立額小学校 (石川県金沢市)	・岐阜市立青山中学校 (岐阜県岐阜市)
・豊橋市立牛川小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立高師台中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立嵩山小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立東部中学校 (愛知県豊橋市)
・新城市立作手小学校 (愛知県新城市)	・豊橋市立五並中学校 (愛知県豊橋市)
・豊田市立土橋小学校 (愛知県豊田市)	・豊橋市立清陵中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立石巻小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立豊岡中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立岩田小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立南陽中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立栄小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立南稜中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立杉山小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立羽田中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立高師小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立二川中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立高根小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立前芝中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立谷川小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立前林中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立玉川小学校 (愛知県豊橋市)	・豊橋市立吉田方中学校 (愛知県豊橋市)
・豊橋市立多米小学校 (愛知県豊橋市)	・岡山市立上道中学校 (岡山県岡山市)
・豊橋市立つつじが丘小学校 (愛知県豊橋市)	・岡山市立瀬戸中学校 (岡山県岡山市)
・豊橋市立豊南小学校 (愛知県豊橋市)	・岡山市立高島中学校 (岡山県岡山市)
	江田島立三高中学校 (広島県江田島市)

・豊橋市立福岡小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立泉川中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・豊橋市立富士見小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立大生院中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・豊橋市前芝小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立角野中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・豊橋市立松葉小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立中萩中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・豊橋市立牟呂小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立川東中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・豊橋市立吉田方小学校	( 愛知県豊橋市 )	新居浜市立北中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・長久手東小学校	( 愛知県長久手市 )	新居浜市立西中学校	( 愛媛県新居浜市 )
・名古屋市立鳴海小学校	( 愛知県名古屋市 )	武雄市立武雄北中学校	( 佐賀県武雄市 )
・豊橋市立野依小学校	( 愛知県豊橋市 )	学校法人中部大学 春日丘中学校	( 愛知県春日井市 )
・彦根市立城北小学校	( 滋賀県彦根市 )	北海道阿寒高等学校	( 北海道釧路市 )
・NPO 法人箕面こどもの森学園	( 大阪府箕面市 )	北海道札幌平岸高等学校	( 北海道札幌市 )
・岡山市立浮田小学校	( 岡山県岡山市 )	豊橋中央高等学校	( 愛知県豊橋市 )
・岡山市立旭竜小学校	( 岡山県岡山市 )	兵庫県北須磨高等学校	( 兵庫県須磨区 )
・岡山市立江西小学校	( 岡山県岡山市 )	東京立正中学校・高等学校	( 東京都新宿区 )
・岡山市立城東台小学校	( 岡山県岡山市 )	立教女学院中学校・高等学校	( 東京都新宿区 )
・岡山市立高島小学校	( 岡山県岡山市 )	セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校	( 三重県津市 )
・岡山市立千種小学校	( 岡山県岡山市 )	英数学館中・高等学校(広島加計学園)	( 広島県広島市 )
・岡山市立角山小学校	( 岡山県岡山市 )	学校法人清和学園・清和女子中高等学校	( 高知県南国市 )
・岡山市立平島小学校	( 岡山県岡山市 )	千葉県立桜が丘特別支援学校	( 千葉県千葉市 )
・岡山市立御休小学校	( 岡山県岡山市 )	愛知県立豊橋聾学校	( 愛知県豊橋市 )
・広島市立戸坂小学校	( 広島県広島市 )		

平成 27 年 2 月 19 日付け承認(19 校)

- ・静岡市立清沢幼稚園 ( 静岡県静岡市 )
- ・静岡市立東豊田幼稚園 ( 静岡県静岡市 )
- ・由比幼稚園 ( 静岡県静岡市 )
- ・会津若松市立川南小学校 ( 福島県会津若松市 )
- ・蓮田市立蓮田中央小学校 ( 埼玉県蓮田市 )
- ・櫛形市立櫛形西小学校 ( 山梨県櫛形市 )
- ・半田市立板山小学校 ( 愛知県半田市 )
- ・半田市立有脇小学校 ( 愛知県半田市 )
- ・橿原市立白檀北小学校 ( 奈良県橿原市 )
- ・倉敷市立粒江小学校 ( 岡山県倉敷市 )
- ・広島大学附属東雲小学校 ( 広島県広島市 )
- ・新潟県立佐渡中等教育学校 ( 新潟県佐渡市 )
- ・十日町市立松之山中学校 ( 新潟県十日町市 )
- ・蓮田市立蓮田中学校 ( 埼玉県蓮田市 )
- ・岡崎市立南中学校 ( 愛知県岡崎市 )
- ・奈良市立都跡中学校 ( 奈良県奈良市 )
- ・豊中市立第十三中学校 ( 大阪府豊中市 )
- ・千葉県立鎌ヶ谷西高等学校 ( 千葉県鎌ヶ谷市 )
- ・長崎県立対馬高等学校 ( 長崎県対馬市 )



## 今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育（ESD）

日本ユネスコ国内委員会（文部科学省国際統括官付）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111（内線 2937）

e-mail: [jpnatcom@mext.go.jp](mailto:jpnatcom@mext.go.jp)

HP: <http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

facebook: <http://www.facebook.com/jpnatcom>

ESDポータルサイト: <https://www.esd-jpnatcom.jp/>

ESD facebook: <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>

